

## 岩手県高等学校理数科課題研究発表会で 2グループが研究発表

岩手県内の理数科設置校、SSH 経験校の計5校が参加し、平成30年2月16日に富士大学で「岩手県高等学校理数科課題研究発表会」が開催されました。この発表会は、普段触れ合う機会の少ない他校の生徒どうしが意見交換や議論を行うことにより相互に刺激しあい、参加生徒の研究意欲を喚起することを目的として実施され、今回で17回目を迎えます。各校2グループの合計10テーマの研究発表に対して、理数科2年生と来年度課題研究に挑む1年生が活発な質疑応答を交わし、参加した約400名の高校生にとっては貴重な経験でした。

研究発表後は岩手大学工学部准教授の是永敏伸先生に「科学研究のあり方」について講演していただきました。先生からは「高校生の課題研究の発表を聞くと、手段が目的になっているような研究が意外と多いように感じる。『研究は目的ありき』である。」という点を、企業や大学での化学研究の具体例を交えてお話していただきました。



「水飲み鳥の動作解析」のグループの発表



「人工知能による会話の研究」のグループの発表

- ◇ 他の学校の発表を聞いてみて、発表の仕方やスライドのデザインなど参考になる部分が複数有り良かった。また、大学の先生の講演を聞いて、企業と大学の研究の大きな違いについても知ることができ、研究の大事な点についても分かった。
- ◇ 今回の発表では、自分たちの行った研究をしっかりと落ち着いて伝えることができた。他校の発表は、様々なジャンル、視点から研究がなされており、難しいものもあったが、様々な事を知ることができた。
- ◇ 避難経路や渋滞なども数学的に考えられることが分かった。理論は様々な使い方があり、実験結果と理論をうまく結びつけている内容だったと思った。講演を通して、テーマ設定がとても大事だということを感じた。
- ◇ 身近なものに対して、「なぜ？どうして？」と疑問を抱いている方が多くいて、そのことを課題研究にしていたので、私も身の回りのことに疑問を持ち、そこを探求したいと思った。他校の質問の内容が専門的でしたので、私ももっと知識を深めたいと思った。